
京都府議会

文化・教育常任委員会

活動報告書

令和3年5月19日



委員長	山口	勝
副委員長	園崎弘	道
副委員長	井上重典	
委員	前波健史	
委員	中村正孝	
委員	磯野勝	
委員	北原慎治	
委員	成宮真理子	
委員	森下由美	
委員	岡本和徳	
委員	小原舞	
委員	上倉淑敬	

目次 京都府議会 文化・教育常任委員会 活動報告書

1	委員会の審議等の状況（概要）	1
2	委員会活動状況	2
3	重要課題調査のための委員会	7
4	付託議案及び審査依頼議案結果	13
5	付託請願審査結果	14
6	管内調査	15
7	委員会活動のまとめ	19

1 委員会の審議等の状況（概要）

本委員会は、文化スポーツ部の所管及び府教育委員会の所管並びにそれに関連する事項を所管している。

各部局の主な所管事項は、下表のとおりである。

部局名	主な所管事項
文化スポーツ部	文化、芸術、生涯学習、スポーツ、私学、府大学、大学政策
教育委員会	学校教育、特別支援教育、保健体育、社会教育、文化財保護

京都府議会の各常任委員会では、年4回の定例会において、条例案などの審査を行うほか、議会の閉会中に委員会を開催して、府政の重要課題について、テーマを設けて集中的に審議したり、京都府内や他府県に赴いて調査を実施している。

今期の文化・教育常任委員会の閉会中の常任委員会においては、所管事項に関するテーマについての議論を深めるため、理事者から説明を聴取し、意見交換を行った。また、新型コロナウイルス感染症に係る府の対応状況を聴取し、意見交換を行った。

さらに、管内調査では、京都府の施策や先進的な取組が実施されている現場等を訪問し、府の事業担当者や関連事業者の説明を聴取するとともに、現地視察を行った。

2 委員会活動状況

時 期	活 動	議 題 ・ テ ー マ
5 月		
R 2 . 5 . 2 7	委 員 会	<ul style="list-style-type: none"> ■委員長の選任 ■副委員長の選任 ■副委員長の順位
6 月		
R 2 . 6 . 1 9	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■出席要求理事者 ■確認事項 ■定例会中の委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営
R 2 . 6 . 2 3	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (6定1日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■出席要求理事者 ■確認事項 ■報告事項の聴取 (文化スポーツ部) <ul style="list-style-type: none"> ・北山エリア整備基本計画の策定について ・京都府公立大学法人 令和2年度・年度計画について ・包括外部監査結果に基づく措置状況について (教育委員会) ・新設特別支援学校の建設工事等について ■付託議案及び審査依頼議案 (質疑終結まで)
R 2 . 6 . 2 4	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (6定2日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■付託議案 (討論・採決) ■審査依頼議案 (適否確認) ■所管事項の質問 (文化スポーツ部)
R 2 . 6 . 2 5	委 員 会 (6定3日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の質問 (教育委員会) ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
7 月		
R 2 . 7 . 2 1	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■本日の委員会運営 ■今後の委員会運営
R 2 . 7 . 2 1	委 員 会 (閉会中)	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・『WITHコロナ社会』の中での児童生徒への『学びの保障』について ■今後の委員会運営
8 月		
R 2 . 8 . 1 9	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■本日の委員会運営 ■9月定例会におけるペーパーレス委員会の試行実施

R 2 . 8 . 1 9	委 員 会 (閉会中)	<ul style="list-style-type: none"> ■報告事項の聴取 (文化スポーツ部・教育委員会) <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況について ■所管事項の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・「WITHコロナ社会での文化芸術関係者への支援について」 ■9月定例会におけるペーパーレス委員会の試行実施
9 月		
R 2 . 9 . 2 4	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■定例会中の委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営
R 2 . 9 . 2 8	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (9定1日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■報告事項の聴取 (文化スポーツ部) <ul style="list-style-type: none"> ・北山エリア整備基本計画の骨子案について ・京都府公立大学法人の令和元年度計画及び第二期中期目標期間の業務実績に関する評価結果について ■審査依頼議案 (質疑終結まで)
R 2 . 9 . 2 9	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (9定2日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■審査依頼議案 (適否確認) ■付託請願の審査 ■所管事項の質問 (文化スポーツ部)
R 2 . 9 . 3 0	委 員 会 (9定3日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の質問 (教育委員会) ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
11 月		
R 2 . 1 1 . 1	管 内 調 査	○古典の日フォーラム2020 (行催事等委員会調査)
R 2 . 1 1 . 2	正副委員長会	■委員会運営
R 2 . 1 1 . 2	委 員 会 (9定追加提案)	■付託議案 (説明聴取、質疑、討論・採決)
R 2 . 1 1 . 2 6	管 内 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の調査 ○京都先端科学大学〔於：京都太秦キャンパス〕 <ul style="list-style-type: none"> ・京都先端科学大学の特色とコロナ禍における取組について ○北山エリア〔於：京都府立京都学・歴彩館〕 <ul style="list-style-type: none"> ・北山エリアの整備状況について ・現地視察 (京都府立植物園) ○京都府立文化芸術会館 <ul style="list-style-type: none"> ・京都府立文化芸術会館でのコロナ禍における取組について

12 月		
R 2 . 1 2 . 1 0	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■定例会中の委員会運営 ■今後の委員会運営
R 2 . 1 2 . 1 4	委 員 会 (11定1日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■報告事項の聴取 (文化スポーツ部) <ul style="list-style-type: none"> ・北山エリア整備基本計画（最終案）について (文化スポーツ部・教育委員会) ・京都府国土強靱化地域計画の改定（中間案）について (教育委員会) ・第2期京都府教育振興プラン（仮称）（中間案）について
R 2 . 1 2 . 1 5	委 員 会 (11定2日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■付託請願の審査 ■所管事項の質問（文化スポーツ部）
R 2 . 1 2 . 1 6	委 員 会 (11定3日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の質問（教育委員会） ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
1 月		
R 3 . 1 . 2 0	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■本日の委員会運営 ■今後の委員会運営
R 3 . 1 . 2 0	委 員 会 (閉会中)	<ul style="list-style-type: none"> ■報告事項 (教育委員会) <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況について ■今後の委員会運営
R 3 . 1 . 2 0	委 員 会 (中止)	<ul style="list-style-type: none"> ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止 ■所管事項の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・「京都府におけるG I G Aスクール構想の実現に向けた取組について」
2 月		
R 3 . 2 . 5	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■本日の委員会運営
R 3 . 2 . 5	委 員 会 (閉会中)	<ul style="list-style-type: none"> ■報告事項 (文化スポーツ部) <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況について
R 3 . 2 . 5	委 員 会 (中止)	<ul style="list-style-type: none"> ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止 ■所管事項の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ禍におけるスポーツとの向き合い方について」

R 3 . 2 . 1 2	正副委員長会	■本日の分科会運営
R 3 . 2 . 1 2	予算特別委員会 分科会 (2定先行審議)	■審査依頼議案 (説明聴取・質疑・適否確認)
3 月		
R 3 . 3 . 3	正副委員長会	■委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営
R 3 . 3 . 4	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (2定1日目)	■付託議案及び審査依頼議案 (質疑終結まで) ■審査依頼議案 (適否確認)
R 3 . 3 . 1 6	委員会 (2定2日目)	■報告事項の聴取 (文化スポーツ部・教育委員会) ・京都府国土強靱化地域計画の改定 (最終案) について (教育委員会) ・第2期京都府教育振興プラン (最終案) について ・京都府立向日が丘支援学校改築工事基本設計の概要 について ・教職員の働き方改革実行計画の改定について ・府立高校の在り方ビジョン (仮称) について ■付託議案 (討論・採決) ■付託請願の審査 ■所管事項の質問 (教育委員会)
R 3 . 3 . 1 7	委員会 (2定3日目)	■所管事項の質問 (文化スポーツ部) ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
R 3 . 3 . 2 8	管内調査	○サンガスタジアム by KYOCERA VR・eスポーツエリア オープニング式典 (行催事等委員会調査)
4 月		
R 3 . 4 . 1 6	正副委員長会	■臨時会中の委員会運営 ■今後の委員会運営
R 3 . 4 . 1 6	委員会 (4臨)	■所管事項 (新型コロナウイルス感染症に関すること) ■今後の委員会運営
R 3 . 4 . 2 1	委員会 (中止)	※新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止 ■所管事項の調査 ・「京都府におけるGIGAスクール構想の実現に向けた取組について」 参考人：関西大学総合情報学部 教授 小柳 和喜雄 氏 ■今後の委員会運営

R 3 . 4 . 3 0	正副委員長会	■臨時会中の委員会運営
R 3 . 4 . 3 0	委 員 会 (4 臨 ②)	■所管事項 (新型コロナウイルス感染症に関すること)
5 月		
R 3 . 5 . 1 4	正副委員長会	■臨時会中の委員会運営
R 3 . 5 . 1 7	委員会及び 予算特別委員会 分 科 会 (5 臨)	■所管事項 (新型コロナウイルス感染症に関すること) ■審査依頼議案 (説明聴取・質疑・適否確認)

3 重要課題調査のための委員会

(1)「WITHコロナ社会」の中での児童生徒への「学びの保障」について

(令和2年7月21日(火)開催)

■開催概要

京都府では新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、府の緊急事態措置を踏まえ、府立学校については5月31日まで臨時休校を行い、府内の多くの小・中学校でも同様の対応がとられた。新型コロナウイルス感染症について、今後中・長期的な対応が求められるところであるが、学校における感染及びその拡大のリスクを分散授業の実施やICT環境の整備等を通して可能な限り低減した上で、学校教育活動を継続していく必要がある。

今回の委員会では、コロナとの共生社会の中で児童生徒への「学びの保障」について、理事者より説明を聴取し、意見交換を行った。

各委員から出された意見・見解等について、今後の府政の推進に当たり十分留意し、府民のため、なお一層の創意工夫をするよう、理事者に対し要望された。

■出席理事者

【文化スポーツ部】

副部長（文化庁移転・スポーツ・文教担当）、文教課長

【教育委員会】

教育監兼学校危機管理監、管理部長、管理部理事（教職員企画課長事務取扱）、総務企画課長、管理課長、教職員人事課長、指導部長、学校教育課長、学校教育課参事（ICT教育推進室長）、特別支援教育課長、高校教育課長、保健体育課長

■主な質問事項

- ・GIGAスクール構想により期待される効果について
- ・少人数学級の推進について
- ・新型コロナウイルスに関するいじめについて
- ・ICT活用に関する教員を対象とした研修について など

(2)①新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況について

(令和2年8月19日(水)開催)

■開催概要

新型コロナウイルス感染症の府内の感染状況に関しては、令和2年5月21日に緊急事態宣言が解除されたものの、6月25日以降、連続して感染者が確認される状況にあり、7月29日には特別警戒基準に到達した。

今回の委員会では、新型コロナウイルス感染症にかかる京都府の対応状況について、理事者より説明を聴取し、意見交換を行った。

■出席理事者

【文化スポーツ部】

部長、副部長（文化総合戦略担当）、理事（文化・スポーツ施設整備担当）、文化スポーツ総務課長、スポーツ振興課長、文化スポーツ施設課長、文教課長

【教育委員会】

教育長、管理部長、総務企画課長、管理課長、指導部長、学校教育課長、特別支援教育課長、高校教育課長、保健体育課長

■主な質問事項

- ・新型コロナウイルスに関する差別について
- ・学校における教員等の加配について
- ・教員の負担軽減について
- ・PCR検査の実施について など

(2)②WITHコロナ社会での文化芸術関係者への支援について

(令和2年8月19日(水)開催)

■開催概要

京都府では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、文化活動を自粛・縮小せざるを得ない状況におかれた文化芸術関係者が、活動を継続・再開できるよう、創作活動を準備段階から支援するための補助金を創設した。

新型コロナウイルス感染症について、今後中・長期的な対応が求められる中で、文化芸術関係者に対して経済的支援だけにとどまらない、幅広い支援を行う必要がある。

今回の委員会では、コロナ社会での文化芸術関係者への支援について理事者より説明を聴取し、意見交換を行った。

各委員から出された意見・見解等について、今後の府政の推進に当たり十分留意し、府民のため、なお一層の創意工夫をするよう、理事者に対し要望された。

■出席理事者

【文化スポーツ部】

副部長(文化総合戦略担当)、副部長(文化庁移転・スポーツ・文教担当)、文化政策室長、文化芸術課長、文化スポーツ施設課長

■主な質問事項

- ・文化活動継続支援補助金の申請状況について
- ・文化活動継続支援補助金の補助対象について
- ・京都府の相談窓口について
- ・新型コロナウイルス終息時のイベントについて など

(3)新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況について

(令和3年1月20日(水)開催)

■開催概要

新型コロナウイルス感染症の府内の感染状況については、令和2年12月の新規感染者数が2,000人を超え、また年明け以降も拡大が続いている。令和3年1月17日には、過去最多となる154人の感染が確認されるなど、高い水準が続いている。

こうした中、1月13日に開催された、国の新型コロナウイルス感染症対策本部においては、京都府を含む7府県が新たに緊急事態措置を実施すべき区域に追加され、1月14日からは府の緊急事態措置を実施しているところである。

今回の委員会では、新型コロナウイルス感染症にかかる京都府の対応状況について、理事者より説明を聴取し、意見交換を行った。

■出席理事者

【教育委員会】

教育監兼学校危機管理監、管理部長、指導部長

■主な質問事項

- ・学校における新型コロナウイルス感染症感染防止対策について
- ・児童生徒への心のケアについて
- ・オンライン授業の実施について
- ・PCR検査の実施について など

(4) 新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況について

(令和3年2月5日(金)開催)

■開催概要

新型コロナウイルス感染症の府内の感染状況について、本府では、令和3年1月14日から緊急事態措置を実施し、2月2日の政府の基本的対処方針の変更を踏まえ、期間を3月7日まで延長したところである。

今回の委員会では、新型コロナウイルス感染症にかかる京都府の対応状況について、理事者より説明を聴取し、意見交換を行った。

■出席理事者

【文化スポーツ部】

副部長（文化総合戦略担当）、副部長（文化庁移転・スポーツ・文教担当）、理事（文化・スポーツ施設整備担当）

■主な質問事項

- ・文化芸術団体への支援について
- ・大学に対する補助金等の活用状況について
- ・各大学の学生への対応について
- ・令和2年度の予算状況について など

(5) 京都府におけるG I G Aスクール構想の実現に向けた取組について

令和3年4月21日に開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

4 付託議案及び審査依頼議案結果

「◎」は全会一致、「○」は賛成多数、「×」は否決、「会派名＝少」は少数意見留保、「＊」は修正案提出

(委員会)

	議案番号	件名	審査結果	備考
6月定例会	7	財産出資の件	◎	
	8	財産無償貸付けの件(桂川舟運歴史体験・展示施設)	○ 共＝少	
	9	財産無償貸付けの件(京都府立医科大学附属北部医療センターがん診療棟用地)	◎	
	12	京都府公立大学法人定款変更の件	◎	
9月定例会	21	新設特別支援学校(井手地区)校舎新築工事請負契約変更の件(主体工事)	◎	
	22	新設特別支援学校(井手地区)校舎新築工事請負契約変更の件(電気設備工事)	◎	
	23	新設特別支援学校(井手地区)校舎新築工事請負契約変更の件(機械設備工事)	◎	
2月定例会	27	財産無償貸付けの件(元府議会議員公舎)	◎	

(分科会)

	議案番号	件名	詳細審査結果
6月定例会	13	令和2年度京都府一般会計補正予算(第3号)中、所管事項	適当
9月定例会	1	令和2年度京都府一般会計補正予算(第4号)中、所管事項	適当
2月定例会	45	令和2年度京都府一般会計補正予算(第8号)中、所管事項	適当
	52	令和2年度京都府一般会計補正予算(第11号)中、所管事項	適当
5月臨時会	1	令和3年度京都府一般会計補正予算(第5号)中、所管事項	適当

5 付託請願審査結果

定例会	受理番号	受理年月日	件名	審査結果
9月定例会	1153	令和2年9月18日	国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進を求めることに関する請願	不採択
11月定例会	1356	令和2年12月8日	2020年度 すべての子どもたちの命を守り、安心して学べる学校づくり、教育条件の整備を求めることに関する請願	不採択
2月定例会	1362	令和3年3月1日	府の責任による少人数学級の実現を求めることに関する請願	不採択

6 管内調査

(令和2年11月26日(木))

1 京都先端科学大学 [於：京都太秦キャンパス] (京都市右京区)

【調査事項】

京都先端科学大学の特色とコロナ禍における取組について

【調査目的】

京都先端科学大学の教育における独自の特色やコロナ禍でのこれまでの感染防止の取組や今後の対応等を調査する。

【説明者】

京都先端科学大学 大学事務局 局長 藤塚 晃生
京都先端科学大学 健康医療学部 学部長 渡邊 能行

【調査内容】

京都先端科学大学は、社会が求める即戦力となるグローバルな人材を育成・輩出する「京都発世界人材」を理念に掲げている。また、2020年4月には工学部を開設し、全学で5学部11学科5研究科体制となり、「社会科学」・「人文科学」・「自然科学」分野にわたる文理融合の総合大学へと発展した。

教育の特色としては、「実践的英語力」・「国際社会人基礎力」・「専門性」の3つを柱とし、リベラルアーツ教育を徹底する中でも特に英語に力を入れているとのことだった。

コロナ禍における取組としては2020年度秋学期の授業実施にあたり、国及び京都府からの指導により京都先端科学大学で作成した『大学の再開に向けた感染症拡大予防のためのガイドライン』、及び「新しい生活様式」に基づき、対面授業と遠隔授業を併用している。対面授業においては、特に、「教室は収容定員の半数以下とすること」及び「各講時の授業終了後に消毒を励行すること」という2点を遵守している。

2021年度入試においては、新型コロナウイルスに感染した受験生への対応として、他の試験日程への振替等を行うとのことであり、試験会場ではマスクの着用や換気の徹底、面接時はシールドスタンドを設置するなど感染防止対策の徹底を行うとのことであった。

【主な質問事項】

- ・コロナ禍における医療系学部の実習の状況について
- ・コロナ禍における学生の経済的状況について
- ・今後のICT教育の展開について など



調査事項を聴取



施設を視察

2 北山エリア [於：京都府立京都学・歴彩館]（京都市左京区）

【調査事項】

北山エリアの整備状況について

【調査目的】

現在整備を行っている北山エリアの整備の進捗状況について調査をし、京都府立京都学・歴彩館、京都府立植物園を視察する。

【説明者】

文化スポーツ部 文化スポーツ施設課 課長 川崎 浩孝
京都学・歴彩館 副館長（企画総務課長事務取扱） 木下 直己
京都府立植物園 副園長 岡垣 勝

【調査内容】

北山エリアにおいては、「憩いの緑と躍動するまちが融合した『文化創造の森』の創出～豊かな自然の中で創造される文化・芸術・学術・スポーツに身近に出会い、交流するまち 京都北山～」を基本コンセプトとする「北山エリア整備基本計画」を策定し、エリア内の施設整備等を順次推進することとしている。

京都府立京都学・歴彩館は、府民に京都の文化、歴史等に関する学習及び交流の場を提供するとともに、京都に関する資料等を収集、保存及び公開することにより京都における文化の発展、学術の振興に資するために設置され、2016年12月に開館した。2020年3月時点で合計100万冊を超える資料が所蔵されている。

京都府立植物園は1924年に日本で初めての公立総合植物園として開園して以来、世界中の植物が観賞できる緑に囲まれた憩いの場、様々な植物の観察を通じた教育・学習の場として「生きた植物の博物館」を目指している。2010年度からは府立植物園「魅力あふれる施設」整備計画に基づき、順次整備に着手しており、植物園の魅力向上のための施設整備を継続的に推進している。また、最近では来園者の利便性向上のため、入園料の支払いにキャッシュレスを導入しているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・北山エリアの基本コンセプトについて
- ・若手芸術家の新たなマーケット開拓のための取組について
- ・植物園の閑散期における集客のための取組について
- ・コロナ禍における植物園の利用状況について など



京都学・歴彩館を視察



植物園を視察

3 京都府立文化芸術会館（京都市上京区）

【調査事項】

京都府立文化芸術会館でのコロナ禍における取組について

【調査目的】

新型コロナウイルスが文化活動に及ぼす影響や京都府立文化芸術会館でのこれまでの取組や今後の対応等を調査する。

【説明者】

京都府立文化芸術会館 副館長 四方 浩

【調査内容】

京都府立文化芸術会館は、文化芸術を愛する人々に発表と交流の場を提供し、京都における文化芸術の創造活動に寄与するため、1970年に開館し、ホールや展示室のほか、録音室や会議室等を有している。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、文化芸術会館は2020年4月13日から5月24日まで休館をし、それに伴い主催事業も中止となった。10月からは、来場者による大声での歓声等がないことを前提とする講演については、感染防止対策を講じた上で、収容率100%としている。しかし、再開館後も利用者は戻っておらず、10月末までの利用率は29%にとどまっているとのことであった。展示室・会議室についても利用率は展示室27%、会議室19%となっている。

文化芸術会館では京都府に準拠したガイドラインの第1次版を5月24日に策定し、その後イベント緩和方針を受け10月1日に改定を行った。また、新型コロナウイルス感染症予防の取組として、サーモグラフィーカメラ・非接触型体温計の設置による検温の実施や、ホール内空調設備にイオン発生装置の設置、社会的距離の確保のためのフロアマーカの設置及びホール座席の使用制限の実施などを行っているとのことであった。

【主な質問事項】

- ・作品の展示方法について
- ・公演のネット配信の検討について など



調査事項を聴取



施設を視察

文化・教育常任委員会 管内調査日程

令和2年

月日	発着地	発時刻	着時刻	摘要
11月26日(木)	議会棟 9:40 集合、9:45 出発			
	議会棟	9:45		【借上バス】
	京都先端科学大学 〔於：京都太秦キャンパス〕 (京都市右京区)	11:50	10:10	●京都先端科学大学の特色とコロナ禍における取組について ①概要説明 ②施設視察
	(昼食)	(12:30~13:05)		(京都市内)
	北山エリア 〔於：京都府立京都学・歴史館〕 (京都市左京区)	14:50	13:10	●北山エリアの整備状況について ①概要説明 ②施設視察 ③現地視察 (京都府立植物園)
	京都府立文化芸術会館 (京都市上京区)	16:00	15:00	●京都府立文化芸術会館でのコロナ禍における取組について ①概要説明 ②施設視察
	議会棟		16:10	【解散】

7 委員会活動のまとめ

5月臨時会の委員会（令和3年5月17日開催）において、新型コロナウイルス感染症対策として、1年間の「委員会活動のまとめ」の議事が設けられなかったため、希望する委員から書面により提出がされた。

以下、その内容を委員名簿順に記載した。

○山口 勝 委員長

昨年5月より1年間、文化・教育常任委員会の委員長として、活動させていただき、園崎、井上両副委員長、各委員並びに理事者の方々、吉岡、岡野、中尾事務局職員の皆様におかれては、円滑かつ真摯な委員会運営に御協力いただき、衷心より御礼申し上げます。

1年間、コロナ禍での委員会運営は、通常の年とは異なり、管外調査の未実施、参考人招致の中止、委員会室の環境整備、時間短縮など委員並びに理事者も初めての経験でもありました。しかし、そういった制約される委員会活動ではありましたが、委員会での熱心な審議並びに管内の調査活動では、一定の成果を得るものであったと思慮するものであります。

本委員会が所管する文化スポーツ部、教育委員会ではこの1年余り、新型コロナウイルス感染症対策に全力を傾注せねばならない状況にあり、中でも、教育委員会所管の府立高校をはじめとする教育機関の一斉休校の実施など、これまで、直面することのなかった問題に対応しなくてはいけない困難な状況も発生しました。そして、今なお、その状況は継続しており、感染症の一定の収束にむけて、ワクチン接種の安全かつ迅速な実施及び医療・検査体制の充実・強化、生活や雇用に困窮する社会的弱者、休業や環境の変化において厳しき経営に陥っている事業者などへの支援は、喫緊の課題と認識しており、以下、何点かの要望を申し上げます。

文化スポーツ部においては、文化・芸術関連において、展覧会、コンサートなどのイベントが開催できなくなり、主催者並びに関連事業者、個人のフリーランサーにも大きな影響が発生しており、コロナ禍が収束した後の文化活動の再開も懸念され、京都の誇るべき文化が発揚される施策の展開を求めます。また、大学の街、京都において、学生の皆さんもキャンパスにて授業が受けられず、オンライン授業という変則的な形態となり、キャンパスライフを楽しめる環境ではなく、アルバイトもなくなり、経済的に困窮する学生も増加しました。一層の学生支援を求めるものであります。

そういった課題が山積している中、長年の懸案である北山エリアの整備計画の推進も図られていますが、求められているのは事業の透明性と必然性であり、中でも、府立大学内に建設予定のアリーナ体育館に関しては、あくまでも大学内の施設として、学生ファーストの体制での建設・運営が重要と考えます。

教育委員会関連では、学校の休校に伴う諸課題、初めてのオンライン事業、GIGAスクール実施に伴うICTの活用等など、今後、議論を深めるべき観点があると思われる

ます。

中でも、深刻な状況となっていると感じるのが、子どものメンタルヘルスの問題です。コロナ禍において、家庭で過ごす時間の増加により、精神面での不安定な症状を発生し、精神科、神経科などの診療を受ける子どもの数が増大しており、今後、家庭と学校の連携強化により、子どものメンタルヘルスの推進を図るべきと考えます。

国・府においてコロナ禍における、様々な支援策を講じてはいますが、全てが高く評価されている訳ではなく、各々の現場では、不平・不満なども渦巻いています。

いずれにしても、現在行われている支援策やその他の施策の展開において、一定の期間を経て、あらゆる観点から十分な検証を行い、次に備えることが重要と思います。

次期の委員会においても、文化・教育の分野において、真摯な議論がなされ、府民の安心・安全の実現に向けた取り組みが強化されることを望みます。

○園崎 弘道 副委員長

山口委員長、井上副委員長、また委員、理事者、事務局の皆様方に大変お世話になりましたことに、改めて感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で、例年どおりの委員会運営とならなかったこともありましたが、しかし、コロナという未曾有の危機に直面する中であって、行政として、また議員としての在り方をいつも以上に考える1年でありました。理事者の方々のコロナ対応の様子を伺い、また11月には、関係者の方々に御協力をいただき、管内調査に参加する機会を得ました。そこで、感染リスクは存在しているものの教育活動や文化芸術スポーツ活動を簡単に止めるわけにはいけないという思いで、前例なき課題に立ち向かおうとされる方々の姿を間近で見ることができました。当たり前前が当たり前でなくなり初めて気づくことがありました。現在コロナの収束がいつになるのかはっきりとした出口は見えておりませんが、引き続き、コロナへの対策を、また府民生活にとって大変重要な意味を持つ教育、文化スポーツがより一層充実するものとなることを願い、1年のまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

○井上 重典 副委員長

山口委員長、園崎副委員長そして委員の皆様、また理事者の皆様のお世話になり、今年1年間副委員長を務めることができましたことに対してお礼を申し上げます。

この1年間は昨年から発生をいたしました新型コロナ禍の中で委員会の取組となり限られた活動となりましたが、所管事項等に関する事項に対しては理事者と各委員からの意見交換は活発に行われたのではと思います。

限られた視察範囲の中での管内調査が11月26日に実施され「京都先端科学大学・京都太秦キャンパス」に伺った印象は強く残っております。京都学園大学から大学方針が先端科学の担い手を育成する学府として生まれ変わり、「実践的英語力」「国際社会人基礎力」「専門性」の3つの柱を教育の特色として、リベラルアーツ教育を徹底する中でも特に英語力に力を入れていることが受験生にも受け入れられたのであろうと思います。前大学と比較してみますと受験生に人気が出ていると聞きます。これからの若者が歩む人生は世界を視野にいれて活動をすることは当然のことであり、今の高校生が描いている

目的が先端科学大学と合致してきたのかと感ずるところです。自分のことでありますが、今から47年前（27歳）に、オランダ・ベルギー・フランス・イギリスと遊学をしたときに語学の無さには痛切に感じたものでした。まずは互角にともいかずとも会話が通ずることが行動の第一歩であることは今も昔も変わりがなく、世界共通語（フランス人は英語が分かってもフランス語しか話さなかった）の英語に力を入れている大学の姿勢には敬意を表する次第であります。コロナ禍で「大学再開に向けた感染症拡大予防のためのガイドライン」また「新しい生活様式」に基づき、対面授業と遠隔授業を併用した取組等を拝見してコロナ禍で学生と大学の繋がりや在り方を教えられました。また午後から京都府立文化芸術会館を視察した時に開館に「ストリートピアノ」が2台設置してあるのが目に入り、利用度を尋ねると時々愛好者が弾かれると聞きました。地元（福知山市）出身で戦後総理大臣になられた芦田均先生が昭和30年に母校の地元小学校にグランドピアノを寄贈されたのですが、長年小学校の音楽時間等に愛されてきたピアノも時代の流れには勝てず、その小学校は児童数減少で統廃合になり寄贈されたピアノがぼつんと寂しく体育館の片隅に残されている姿を府立文化芸術会館に設置してあるピアノをみて脳裏を走ったのが、総理のピアノを「芦田均記念館」におき「ストリートピアノ」として蘇らすことでした。

お陰で、現在は記念館に「ひとつさんのピアノ」として設置され、遠くの市町からも愛好家が弾きにこられピアノは、親しまれてきた児童から大人の方々に変わりましたが、芦田先生の遺徳を忍び活躍しました。

府立文化芸術会館は、開館から51年が経過し多くの芸術家達が発表の場として利用されてきた会館であり当時は、ここで発表できることは若手芸術家の格別の思いがあった建物と認識しておりました。現在はコロナ禍で発表する機会も限定される中で芸術関係者に創作支援をする対策が当会館からも発信していただき開館当時の誇り高い文化芸術の場であることを願う次第であります。

○前波 健史 委員

まず、山口委員長、園崎副委員長、井上副委員長、また事務局の皆様には新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、従来とは異なる対応が求められたことと思いますが、円滑な委員会運営に努めていただき、心から感謝申し上げます。また、委員の皆様や関係理事者の皆様にも大変お世話になりました。ありがとうございました。

さて、11月に行われた管内調査において、京都府立京都学・歴彩館、京都府立植物園に視察のため伺うとともに、北山エリアの整備状況について聴取いたしました。北山エリアと同じく、豊かな自然や多数の文化・学術施設を有する伏見区を地元を持つ私としても、この計画の行く末には大変注目しております。北山エリアが世代を超えてたくさんの人々が集まり、交流できる空間となるよう、地元の方々や関連する各種団体の意見を聞きながら、ぜひとも計画の成功に結びつけていただきたいと思います。

この管内調査においては、京都府立文化芸術会館にもコロナ禍における取組について聴取するため伺いましたが、京都府においては、時代祭や祇園祭をはじめ、様々な伝統行事が感染拡大防止のため中止となり、また、演芸、伝統芸能においても多くの公演が中止となるなど、文化産業においてその影響は深刻なものとなっております。京都の大

きな魅力の一つである、文化・文化財を保護することはもちろん、将来的に、コロナ禍が収束した時に向けて、世界に誇れる京都の文化を全国、全世界にアピールする取組についても、関連団体や府内各市町村と連携しながら進めていただきますよう強く要望いたします。

また、スポーツについてですが、東京オリンピック・パラリンピックやワールドマスタースゲームズ2021関西はそれぞれ当初の予定から延期となりました。東京オリンピック・パラリンピックに向けては、各競技の出場内定選手が発表されており、その中には、陸上競歩の山西利和選手や陸上女子5000メートルの田中希実選手、アーティスティックスイミングの福村寿華選手など、京都府にゆかりのある選手も多数選ばれております。各選手の活躍は京都府のアスリートのみならず、コロナ禍において不安を感じている方々に勇気や感動を与えてくれるものだと思います。今後とも、日本国内のみならず、世界で活躍するようなアスリートが京都から輩出されるよう京都府のスポーツ界への支援をお願いいたします。

最後に、教育分野においては、各学校でかつてない長期の臨時休校を行うこととなり、修学旅行をはじめ様々な学校行事や部活動が、中止や規模縮小などを余儀なくされました。このような状況の中、教職員の皆様には、子どもたちの学習意欲の向上や、一人一人の個性や能力を最大限に伸ばせるよう、日々、現場で尽力いただいているところであります。教育委員会としても、教職員の皆様にしっかりと支援できるよう取組を進めていただきたいと思います。また、子どもたちが新型コロナウイルス感染症に感染した場合の精神的なサポートに加え、周囲の誤解や偏見が生じないよう細心の注意を払っていただきますようお願いいたします。

以上で、私からの委員会のまとめとさせていただきます。1年間お世話になり、ありがとうございました。

○中村 正孝 委員

まずは、山口勝委員長、園崎副委員長、井上副委員長には大変お世話になりありがとうございました。そして理事者の皆さんにおかれましては、日頃の常任委員会では的確な御答弁をいただき、また本当に丁寧にご指導いただきましたことに感謝いたします。そして事務局の皆さんにもいろいろお世話になりありがとうございました。

さて、この1年間の委員会活動を振り返ってみますと、一つは教育委員会のほうですけれども、コロナで始まりコロナで終わった1年の中で、「WITHコロナ社会」の中での児童生徒への「学びの保障」についての説明後、質疑が行われ、主に、GIGAスクール構想により期待される効果や、少人数学級の推進、新型コロナウイルスに関するいじめ問題、ICT活用に関する教員を対象とした研修など多岐にわたる議論がありました。それぞれの取組には教職員の負担も多く発生することから、負担軽減を図りつつ創意工夫をしながら進めていただきたく思います。

それから、スポーツのほうですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、文化活動を自粛・縮小せざるを得ない状況におかれた文化芸術関係者が、活動を継続・再開できるよう創作活動を準備段階から支援するための補助金を創設いただき、府民のために一層支援をお願いするところであります。また、延期となっておりました、

サンガスタジアム by KYOCERA にVR・eスポーツエリアがオープンしました。同日、こけら落としイベントとして、「京都スタジアム杯eスポーツ選手権」の決勝リーグが実施され私も視察させていただきとても面白く興味深く見させていただきました。ありがとうございました。

また、管内調査については、京都先端科学大学京都太秦キャンパスに伺い、大学の特色とコロナ禍における取組について調査しました。京都先端科学大学は、社会が求める即戦力となるグローバルな人材を育成・輩出する「京都発世界人材」を理念に掲げている。教育の特色としては、「実践的英語力」・「国際社会人基礎力」・「専門性」の3つの柱とし、リベラルアーツ教育を徹底する中でも、特に英語に力を入れている。4月工学部を開設し、実習用機械設備設置し、指導される方は、企業現場で働く優秀な指導の下で実施されています。京都先端科学大学理事長は日本電産会長の永守氏であり、今までは人材の採用側でいましたが、まさに企業の求める人材が育っていない現状から、社会が求める即戦力となる人材育成を目指すと常に話されています。

次に、現在整備を進めている北山エリアの進捗状況と京都府立京都学・歴彩館、京都府立植物園を視察しました。北山エリアにおいては、「憩いの緑と躍動するまちが融合した「文化創造の森」創出～豊かな自然の中で創造される文化・学術・スポーツに身近に会い、交流するまち 京都北山」を基本コンセプトとする「北山エリア整備基本計画」を策定しエリア内の施設整備を進めていただいているところであります。京都学・歴彩館は、府民に京都の文化、歴史等に関する学習や、京都に関する資料等を収集、保存及び公開されている素晴らしい施設です。植物園は、1924年に日本で初めての公立総合植物園として開園して以来、世界中の植物が観賞できる緑に囲まれた憩いの場であり、引き続き地元と十分議論を重ね進めていただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、様々な意見と議論が行われ非常に勉強になりました。またさらなる知見を得ましたことに大変喜びを感じている次第であります。本当ありがとうございました。

○磯野 勝 委員

1年間の委員会活動を振り返り、「重要課題調査のための委員会」では、「WITHコロナ社会」の中での教育活動、文化活動について主に理事者から貴重な御示唆を賜った。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学校内でのリスクを分散授業の実施やICT環境の整備について、児童生徒への「学びの保障」を念頭において、学校教育活動の継続の必要性が唱えられた。

文化活動を自粛、縮小せざるを得ない状況を鑑み、文化芸術関係者への支援の必要性が訴えられた。経済支援のみならず幅広い支援を引き続きお願いしたい。

「管内調査」は、京都先端科学大学では学内及び学生への感染症対策とりわけ医療系学部の実習への取組は今後のWITHコロナ社会への対応に参考になった。

また、北山エリアの整備状況の調査では、整備基本計画に沿った施設整備を伺った。京都・歴彩館では100万冊にも及ぶ資料を所蔵され、まさに京都の文化、歴史の学習のみならず交流の場としての役割を担っている。府立植物園は、魅力あふれる施設の整備計画に基づき、キャッシュレス導入をはじめ魅力づくりを遂行されている。今後は新たな

壮大な整備整備計画の実現に向け、集客や若手芸術家のマーケット開拓に一層努めていただきたい。

府立文化芸術会館では、コロナ渦における取組を調査した。相次ぐ休館や事業の中止で、利用率も激減。検温の実施、イオン発生装置の設置、ホール使用制限の実施などで対応されてきた。今後は、新たな取組として、公演のネット配信などを駆使して京都の文化芸術の発信を継続して欲しい。

結びに、時宜にかなった実りある様々な調査を計画し、充実した委員会運営に努めていただきました山口勝委員長、園崎弘道副委員長、井上重典副委員長各位に心よりお礼申し上げますとともに、関係理事者の皆様、所属委員の皆様、そして委員会活動のサポートをいただいた議会事務局職員の皆様に対し、1年間お世話になりましたことに衷心より感謝申し上げます。

○北原 慎治 委員

山口委員長、園崎、井上副委員長はじめ、委員の皆様、理事者の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

1年間の委員会活動を振り返ってみると、今年度の委員会はコロナに始まりコロナで終わった委員会でした。「G I G Aスクール構想の実現に向けた取組について」「コロナ禍におけるスポーツとの向き合い方について」と題された所管事項の調査においては、コロナのために委員会が中止になり拝聴することが叶いませんでした。誠に残念でした。また、大学まで含めた学校でのコロナ対策は本当に大変だと思います。世間の注目が学校、あるいは若者へと集中する中、学業、学びを止めてあげたくないという思いと、感染を学校内で広げたくないという思いの中、どちらも両立するようにしていくのは至難の業だったでしょう。入学式や卒業式という人生における大切な行事の中止や、縮小する判断などは断腸の思いでなされたことと思います。今後は今までの常識で行事を行っていくことは難しいと思いますので、新しい形態で児童、学生の学びを保証しつつ、学内行事を行っていただきたいと思います。前例のない中での今後の学校の在り方を考え、実行していくことは難しいとは思いますが、京都府の理事者の方々ならできると確信しております。

今年度の委員会では新しい取り組みとして、ペーパーレス委員会の試行がありました。G I G Aスクール構想を進めている中、我々がいつまでも紙の資料ではいけないと思います。現在、大学生などは教科書をタブレット内にいれて講義を受け、家でも勉強することができるそうです。私が学生だったときは分厚い教科書を何冊も持ち運びしていたことを思うと羨ましい限りです。しかしながら、学生たちがペーパーレスで勉強をしている現状の中、我々はいまだに分厚い紙の資料を頂き、必要な時に持ち運んでいるような次第です。今後の社会の在り方を議論する場で旧態依然としたことをしていたのではいけないと思います。試行的な委員会ではありましたが、とても良かったと思います。持ち運ぶのもタブレットだけで良いですし、委員会のたびに重くて持ってこられない資料も、タブレット内に入っていたので、必要な時にはその資料を参考のために見ることもできました。是非とも進めていただいて、ペーパーレス委員会を実現させていただきたいと強く願います。

本委員会が所管することは、我が国、京都府の未来にとって大変重要な事だと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

○成宮 真理子 委員

1年間、山口委員長、園崎、井上両副委員長をはじめ委員の皆さん、理事者、事務局の皆さんには大変お世話になりました。「まとめ」として数点を述べます。

■新型コロナウイルス感染拡大から子どもたちを守り学びを保障する学校教育について。

「第4波」、変異株が急拡大する中、府立学校や市町の小・中学校でも「クラスター」や多数の児童・生徒の感染事例が発生しており、対策を一層強めるべき局面です。府教育委員会として、①現場の学校や市町の教育委員会と連携し、情報共有と検証を進め、今後の全体の対策に生かすこと、②困難に直面する現場への支援を強め、特に「学びの保障」や「心のケア」も含め、臨時の教員やスクールソーシャルワーカーなどの配置・拡充など支援を進めること、③正規教員を増やし少人数学級へ進むこと、を求めます。

コロナにより生活困窮が広がる中、教育費の負担軽減がますます必要な局面です。ところが、府立高校へのタブレット導入について、今年度の入学生からタブレット端末自費購入（6～7万円）が試行され、来年度は全校に広げる計画に、保護者から「コロナ禍で、なぜ自己負担を増やすのか」との怒りの声が上がっています。そもそも、「デジタル化」「GIGAスクール」構想は、授業や教育の在り方、経済・情報格差の問題などをはらんでおり、十分な議論と検討、現場の合意、技術支援などが欠かせません。それらも抜きに拙速に導入し、ましてや自己負担など大変な矛盾であり、押し付けはやめるべきです。

■「北山エリア」整備計画について。

この地域は、府立植物園や府立大学、コンサートホールなどが集中し、文化学術発信拠点、自然豊かな憩いの場として親しまれてきた貴重な府民財産であり、「民間活力導入のポテンシャル」など企業利益のために活用する計画は問題です。

住民・関係者らによるネット署名が短期間に約46,000筆に広がり、府立大学学生からも「1万人規模のアリーナより、老朽化した体育館・キャンパス全体の対策を早くして」、住民から「閑静な地域に民間利益と賑わい優先の計画は困る」などの声が上がっています。

ところが府は、そうした声に耳を貸さず、基本計画策定業務に続き、民間導入などを具体化する計画もプロポーザルで大手コンサル会社に受注させています。府民よりも民間利益を優先するのは問題であり、関係者の声を踏まえ計画は抜本的に見直すべきです。

■府立向日が丘支援学校の建て替えと寄宿舎廃止について。

老朽化した校舎の全面建て替えは、保護者・教職員が長年求めてきたことであり、当然、それらの声を反映し、50年余にわたる学校の取組・実績を全面的に生かすべきです。ところが府の計画は、保護者らが存続・発展を求めてきた寄宿舎の廃止など、大きな問題があります。

支援学校と寄宿舎は、障がい児が卒業後も地域で豊かに暮らしていくための成長の場所あり、そのキーマンである寄宿舎支援員も含めて建て替え後も位置づけるべきです。

また寄宿舎は、乙訓地域での障がい児「緊急一時入所」も受け入れるなど、家族を支える役割を果たしてきました。

いまからでも、子どもたち・保護者、関係者の声を反映させ、寄宿舎の存続をはじめ計画を抜本的に見直すべきです。

■コロナ禍の影響を受ける文化・芸術への支援について。

コロナ拡大から1年4か月、京都でも、演劇や音楽、美術、映画をはじめ、文化芸術のあらゆるジャンルが活動継続の危機にあります。関係者らによる要請が繰り返される中で、昨年度は文化活動継続のための支援事業が創設され、幅広いジャンル、プロ・アマ、団体・個人、技術者なども対象に、今年1月まで延長され、関係者から喜ばれてきました。

ところが、コロナ感染が一層深刻になっている今年度は、支援は狭い対象に絞られてしまっています。京都の文化芸術を支える人々を1人も置き去りにしない立場での実情に応じた支援を求めます。

■コロナ禍で困窮する学生への支援について。

「アルバイトができず学費が払えない」「キャンパスに入れず、孤独な学生生活が辛い」など、学生の皆さんの実態はさらに深刻さを増しており、大学教育にふさわしい学びの保障、学生生活の支援が求められます。学生から「安全に対面授業と学生生活ができるよう、大学でPCR検査を」の声が上がり、府内各地でボランティアによる「食材提供プロジェクト&生活相談」が広がる中、5月補正予算では、PCR検査や学生支援も含めた大学支援策が提案され、一歩前進です。同時に、背景にある高学費問題の解決へ、学費値下げ、給付制奨学金などの対策、府として学生の実態調査に踏み出すよう求めます。

1年間、本当にありがとうございました。

○森下 由美 委員

この1年間、正副委員長をはじめ、各委員の皆さん、理事者の皆さんそして事務局の皆さんには、大変お世話になり、ありがとうございました。

とりわけこの1年は、コロナ禍における感染対策をしながらの委員会運営で、大変御努力いただきましたことに感謝いたします。

私は、「誰もが安心して学べる、学校、教育環境づくり、文化スポーツの振興」を求めて議論してきました。また、住民の利益を優先する立場で意見、提案をしてきました。

コロナ禍で、少人数学級を求める世論が広がり、府議会にも「少人数学級を求める請願」が出され、採択に努力しました。請願は不採択になりましたが、「少人数(30人)学級を求める意見書」が府議会で全会一致で採択されたこと、さらに国が、小学校の学級編制の標準を5年間かけて計画的に40人から35人に引き下げることが法制化され、令和3年度から実施されたことは大きな前進でした。今後さらに少人数学級の推進を求めていきたいと思えます。そのためには計画的に教員を増やしていただくことが重要です。是非真剣に取り組んでいただくことを求めます。

さらに、各学校におけるコロナ感染予防対策に関わって、スクールサポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置と、身分保障を積極的に取り組

んでいただくことを求めています。

特別支援学校の教育環境を改善するため、国は特別支援学校に備えるべき施設等を定めた設置基準を策定する方向で動きだしました。本府においては過大規模校の解消で、進められている、井手町における特別支援学校新設工事がコロナ禍により遅れが生じていたことは残念ですが、南山城支援学校においては仮設教室を増設せざるを得なくなりました。宇治支援学校の過大規模解消の課題、さらに向日が丘支援学校の新設校設置についても、設計案が出されましたが、保護者、教職員をはじめ、地域からは「寄宿舍をなくさないで欲しい」と言う声がたくさん寄せられています。しっかり住民の声に応え、豊かな障害児教育を保障する立場で、検討すべきと考えます。

北山エリア整備計画についても、地域からは、異論が出されています。府立大学の体育館、府民の貴重な財産である植物園の在り方、賑わいや交流施設の整備を理由に大規模な開発を進めることはやめていただくことを求めています。

1年以上にわたって府民の文化スポーツ活動が、コロナにより大きく制限され、府民生活に大きく影響を及ぼしています。今後の活動を支える行政の支援を、きめ細かく取り組んでいただくことを求めます。

○岡本 和徳 委員

まず、山口委員長はじめ、園崎第1副委員長、井上第2副委員長、委員の皆さん、1年間お世話になりありがとうございました。また、理事者の皆さん、そして事務局の皆さんにも感謝申し上げます。

この1年間コロナ一色の話題で、特に子どもたちに与える影響は多大なものであり、行事やクラブ活動の停止、留学の中止など、子どもたちにとっては貴重な体験の機会を失い、学校での思い出作りもなかなかできない状態でありました。

10代における経験というのは、その後の人生に大きく影響を与えるものであることは確かであり、これほどまでに多くの子どもたちに影響が及ぶとなると、京都の未来、日本の未来にも当然影響が出てくるわけです。日本は教育にかける予算が少ないことで有名です。さらには人口減少、少子高齢化、長年にわたる経済の停滞などを鑑みると、これからの未来を切り開くべき若い人たちの人材育成というものは、京都、日本にとって極めて重要です。

京都には多くの大学があり、京都の高校を卒業した子供たちの多くは京都に残ってくれるものだと思います。こうした若い人たちに対して、今後コロナ禍で失われた前述したような多くの機会の一部でも体験できるような機会を作ってあげられるようなことができればうれしいなあと思っております。

一方で、このコロナ禍を克服し新しいことにチャレンジしたり取り組んだりという良い意味での変化の兆しを見ることもできました。ICTを活用した教育の実施が進んだり、在宅の教育というのもある意味ではいいこともあったのではないかと思います。さらには、第二期京都府教育振興プランもできてきました。これからの時代を切り開く若い人たちの夢と希望を実現できる社会の構築など、教育は街づくり、国家づくりの根幹です。私は国際バカロレアの導入についても肯定的ですし、今後もう一度バカロレアの導入を進めていただきたく思っています。コロナ禍で失われた留学の機会も、バカロレアを作

っていればしっかりと国際人を育成することができるはずです。プランの中では「教育環境日本一プロジェクト」という言葉もありますので、しっかりと日本一の教育環境の構築を目指していただきたいと思います。

橋本教育長におかれましては、中教審にて御活躍いただいているところです。わたしが教育長に最もお願いしたいことは、子どもたちに多くの選択肢を用意してあげてほしいということです。府立高校の魅力化、特色化は重要です。今になってもまだ大学進学しか選択肢がないような社会は改めなければなりません。コロナ禍の中、子どもたちの自殺率というのも上がっているそうです。子供たちの潜在的な能力を引き出すこと。子どもたちの興味を体験できる機会を増やすこと、などの取り組みは必要です。また、若い人たちが夢と希望を語ってそれを実現できる社会を作る必要があります。それが大人の役割です。政治の役割だと思っています。

教育の制度に変化を加えることは難しそうですが、教育の成果が出るのは子供たちが成長した10年後、20年後です。今改善していただければ結果が遅くなります。様々な声を聴いて、今後の取り組みを検討していただきコロナ禍を克服することはもちろん、これまでに得られた教育委員会としての知見、経験と今後のビジョンに挑戦する、未来は自分たちの手腕にかかっているという強い気概を持って、目まぐるしい社会の変化を前向きに捉えて今後の教育行政に携わっていただければ幸いです。あまり明るいニュースがない時代ですが、次世代のために明るい道を示してあげられるよう、一緒に頑張っていきましょう。

○小原 舞 委員

この1年間、山口委員長、園崎副委員長、井上副委員長をはじめとして、委員の皆様、そして理事者の皆様、職員の方々、大変お世話になりました。

今回の常任委員会では、主に新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況の聴取と質疑が主となり、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「京都府におけるGIGAスクール構想の実現に向けた取組について」の参考人招致や管外調査等が中止となり、従来とは異なる委員会となったが、工夫を凝らしながらコロナ禍の中でも必要な意見聴取が出来たことに感謝いたします。

まず、管内調査では、京都府立文化芸術会館（京都市上京区）でのコロナ禍における取組について調査し、新型コロナウイルスが文化活動に及ぼす影響や京都府の支援策について理解を深めた。同会館は、京都における文化芸術活動の拠点として、演劇・古典芸能・舞踊・音楽等、様々なジャンルの上演に適した舞台芸術専用ホールとして、歴史と伝統を感じられる素晴らしい劇場であった。感染症予防の取組として、サーモグラフィーカメラ・非接触型体温計の設置等や、社会的距離を保つため職員の方の手作りのホール座席のパーティション等を見させていただいた。昨年緊急事態宣言発出により、文化イベント等が中止を余儀なくされ、再開後も利用率が激減し、文化芸術関係者の収入のめどが立たない中、文化の中心地京都における施策として、京都府文化活動継続支援金補助金や相談窓口の状況や課題についての確認やきめ細やかな対応等の提案がなされた。昨年中止となった京都を舞台にしたアーティスト主導のアートフェア「ARTISTS' FAIR KYOTO 2021」が日時指定の事前予約制等の感染症対策を実施した中で開催され、ア

ーティストの作品展示、販売等を行い、WITHコロナの中での芸術家支援、府民が文化に触れる機会の提供等の好例になったのではないかと思われる。

「WITHコロナ社会」の中での児童生徒への「学びの保障」については、緊急事態措置を踏まえて、臨時休校が実施された当初は、児童、保護者、教員をはじめ、現場で様々な不安の声が寄せられた、ICT環境の整備、ICT活用のための教員研修、オンライン授業の実施における先進的な取組の紹介や教員の働き方改革、児童生徒に陽性者が出た場合の学校の対応と心のケア、いじめ対策、教室の感染予防対策、入試、部活動、修学旅行、留学、特別支援学校における対応等、多岐にわたる質疑応答が行われた。コロナ禍によって児童生徒が様々な制約を抱えることになるが、「学びの保障」を担保するための一層の工夫と施策の推進が求められる。

所管事項の質問においては、府立高校におけるコミュニティスクールの導入についての現状と展望について、以前に視察させていただいた京都府立宮津天橋高等学校の宮津学舎と加悦谷学舎との間で遠隔教育システムを利用した授業を例にしてICT活用と児童生徒の学びの深化と教員の働き方改革について、文部科学省による学校の働き方改革の一環で、2023年から土日の部活動が段階的に地域に移行されるに当たっての京都府の取組について、スポーツ振興について、京都府の文化財保護について等を取り上げた。教育委員会と文化スポーツ部の連携が求められる分野において、情報共有等をさらに図るとともに、WITHコロナ社会、POSTコロナ社会において、より一層、地域社会との関わりを深めていく必要がある。引き続き現場の状況を把握し、本常任委員会で得られた知見を生かしていきたい。